本日、卒業式を迎えられた第四中学校99名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご臨席賜りました八王子市教育委員会 松土 和広 学校教育部長、ご列席の第二小学校 校長 土屋 英二 様、第五小学校 校長 西村 実 様、本校学校運営協議会、町会の皆様、そして本校教職員とともに、皆さんの卒業を心からお祝い申し上げます。また、皆さんの成長を支えてこられました保護者の皆様、すべての関係者の皆様にお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、今日は、中学校3年間、義務教育9年間の区切りというライフイベントであり、重要な節目です。卒業証書を受け取った今のあなたにとって、卒業式はどのようなものになりそうですか？私は卒業生の皆さんとはこの1年間の関わりでしたが、この1年間のあなたたちの姿を見ていて、地域の中学校で学ぶってこういうことだよなあ、ああ中学生になるとこんなにできるようになるんだ、など、素敵だなあと感じるたくさんの場面がありました。

ここではそのうちの2つに絞って取り上げます。一つは富士森競技場で開催した体育大会に向けた大縄跳びの練習です。富士森競技場の芝と、できるだけ近い条件で練習がしたい。だから芝のある浅川河川敷で練習させてほしい、と先生らに要望し、実現しましたね。もう一つは、修学旅行に向けたルールを、実行委員を中心に議論して、見直したということです。昨年度はこうだったから、と思考停止することなく、9月上旬の京都・奈良の気候や3日間の行程を踏まえて、服装をどうするか、持ち込んでよいものの範囲など、論理的に議論を重ねていましたね。教育はプロセスという意味での過程が大切だと言われます。いずれにしても、本番に向けてみんなでいろいろ考えて頭を働かせ、みんなであーでもないこーでもないと右往左往しながら汗をかく、という「学校で学ぶ意味」をあなたたちの姿で学ばせてもらいました。これら2つの場面以外にも、きっと一人ひとりにある、「こんなことにチャレンジした」「こんなことができるようになった」ということを自信にして、新しい世界に挑戦してみてください。

そして、これからあなたが踏み出す新しい世界に向けて、です。希望や期待とともに、きっと「不安」もあり、それらの割合はそれぞれでしょう。ここでは敢えて「不安」に着目してみます。一つ言えることは、「不安」のない人間はおおよそいないということです。そんな「不安」に対して、これまで私たち人間はどのように対処してきたか？歴史で勉強しましたね、それは「お祈り」や「占い」です。しかし、現在の私たちがもっている対処方法は「お祈り」や「占い」だけではなく、多種多様で多岐にわたります。中でもサイエンス、科学の力が大きいです。「不安」があるとき、私たちは、その「不安」の原因や正体を具体的に洗い出し、科学的に調べ、根拠を確かめ、合理的に、論理的に考え、必要に応じて道徳的にどうか、などと仲間や先生、専門家と話し合っ対処しています。そうです、学校の勉強というのは未来に対する「不安」を乗り越え、みんなで課題解決するための手続きを学んでいたとも言えるのです。あなたたちには、小学校、中学校の内外を問わず、この時期に出会った仲間、学習したことを活かして、逞しく、粘り強く生き抜いてほしいと願っています。そして、近い将来、この社会を担い、次の社会を創る仲間として、私たちと一緒に汗をかきましょう。待っています。

保護者の皆様、改めてお子様の中学校のご卒業おめでとうございます。今日でお子様の義務教育が修了します。保護者の皆様にとっても重要な節目ですね。お子様と直接かかわる私たちが、協力し合ってお子様の心と体の健康、そして命を守り抜くということができたという喜びを、この卒業という機会に共に分かち合うことができました。改めて、ありがとうございました。

結びにあたり、卒業生の皆さんが、中学校での3年間のすべての学び、そして義務教育9年間の積み重ねを基礎にし「他の誰のものでもない、あなただけの道を歩けるようになる」ことを期待して、式辞といたします。